

みやぎ東日本大震災津波伝承館の御案内

令和5年4月1日 宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課



●基本情報

【開館日】 令和3年6月6日（日）午後3時

【所在地】 宮城県石巻市南浜町2丁目1-56 石巻南浜津波復興祈念公園内

【開館時間】 9:00～17:00(最終入館16:30)

【休館日】 毎週月曜(祝日の場合は翌日)※GW期間を除く
年末年始(12/29～1/4)

※ただし、毎月11日は曜日・祝日に関わらず開館する。

【入館料】 無料

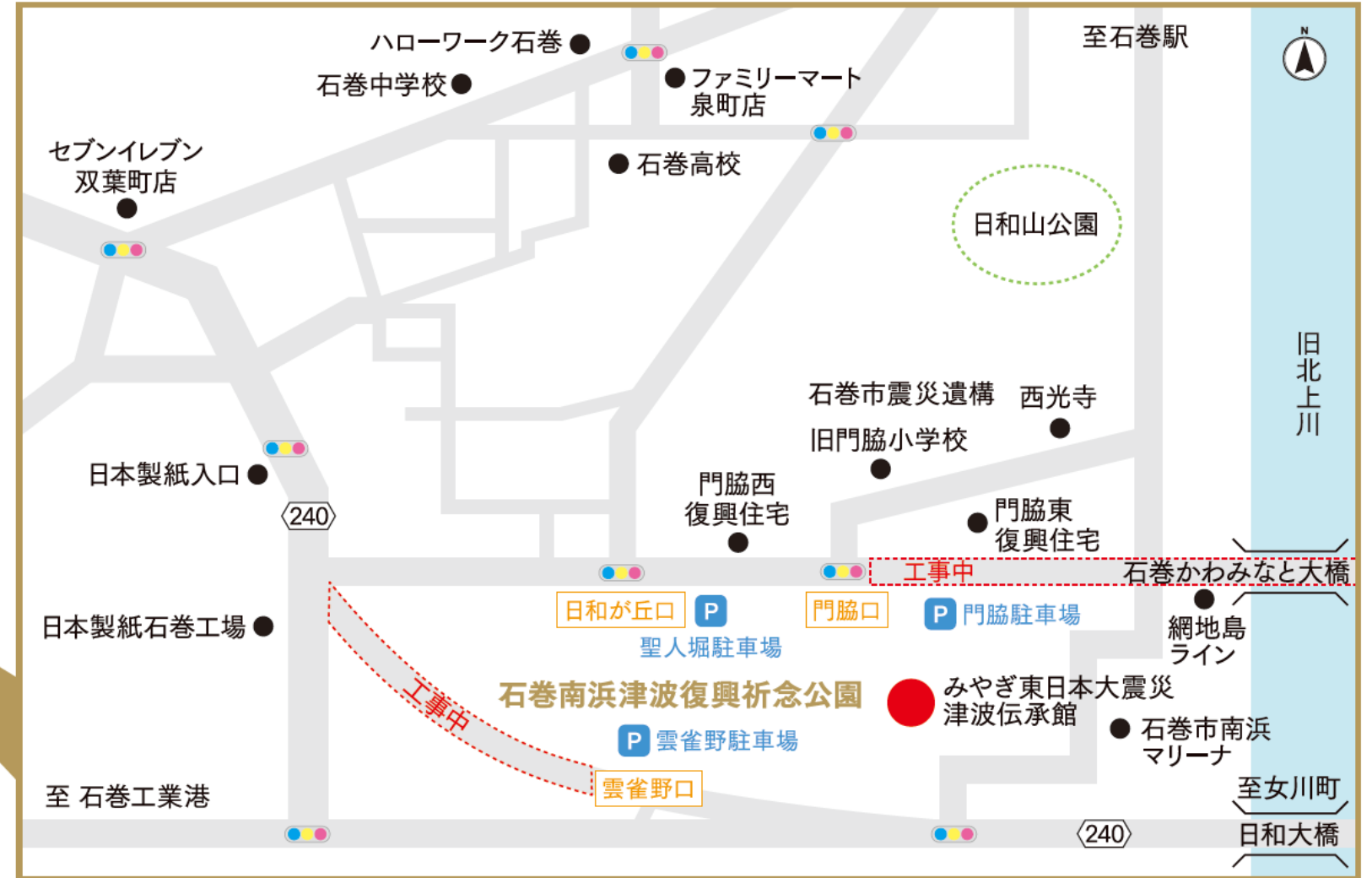
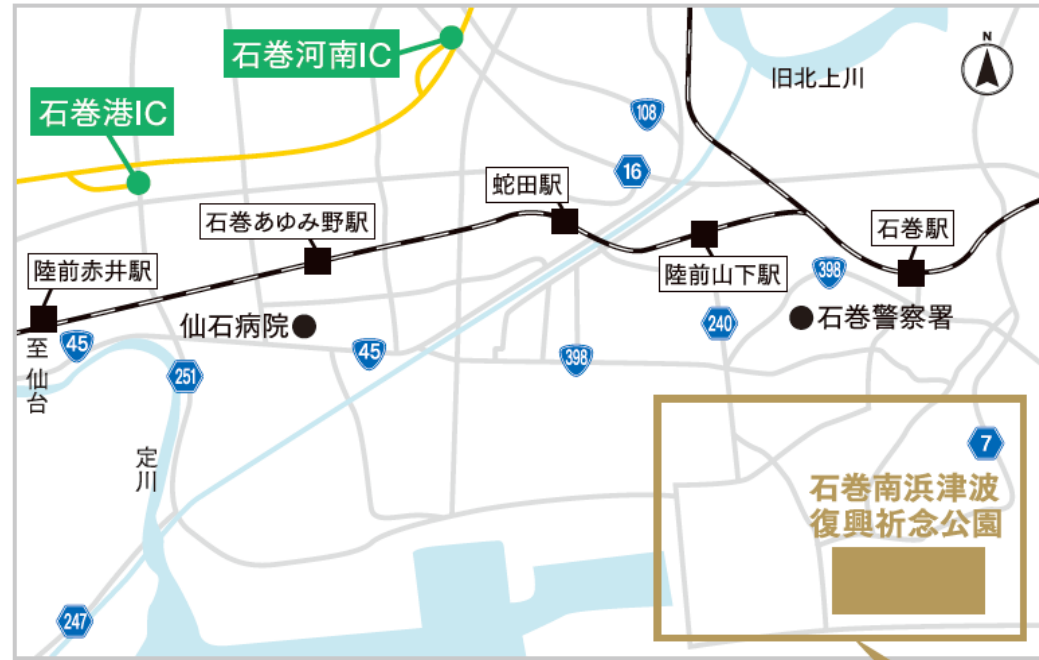
【TEL】 展示見学に関すること 0225-98-8081

公園利用に関すること 0225-98-7401

【注意点】 館内でのご飲食はご遠慮ください。ただし、一部で水分補給できる箇所があります。

館内及び公園内は全面禁煙です。喫煙する方は、門脇駐車場内の喫煙場所をお願いします。

●アクセス



※所要時間はおおよその目安です。
ご利用の際は、最新の時刻表等を御確認下さい。

【お車をご利用の場合】

仙台から：三陸縦貫自動車道経由で約70分
最寄りインター：「石巻港IC」, 「石巻河南IC」

各ICから約15分

駐車場（無料）：門脇駐車場
普通車229台
大型車9台
障がい者等優先5台
自転車10台

【バスをご利用の場合】

石巻駅前バス乗り場より
「山下門脇線」乗車「門脇四丁目」下車
所要時間：約12分

【タクシーをご利用の場合】

石巻駅前より約10分

【自転車（レンタサイクル）をご利用の場合】

石巻駅前より約15分

●建物（伝承館）概要

【面積】 1,520m²（うち、展示面積765 m²）

【コンセプト】伝承館の建物は屋内直径40mの正円形の建物で、屋根は林立する122本あるランダムな細い柱で支えられ、建物周辺に植えられた樹林（マツ）が成長した際に連続した空間となるようデザインされています。外壁は全方位を見渡せるよう透明なガラス張りとしており、屋内からの視線の先には、日和山、善海田稻荷、石巻市震災遺構門脇小学校、追悼の広場、日本製紙工場の複数の煙突の煙などをとらえることができます。

また、建物の一番高い北側の屋根の高さは6.9mで、この地を襲った津波が停滞したときの高さを体感できるようになっています。

● 展示整備の概要

・ 展示の目的は、東日本大震災と同じ悲しみと混乱を繰り返さないために、震災の記憶と教訓を永く後世に伝え継ぐとともに、県内の震災伝承施設等へ誘うゲートウェイ（玄関口）の役割を果たすことを目指すもの。

・ 「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」というコンセプトのもと、リアルな津波の映像や被災者の証言等により、津波から命を守るためには「逃げるしかない」ことを訴える映像をはじめ、県内の震災伝承施設や語り部活動を行う団体等のほか、震災を契機に生まれた地域の復興に関する取組等を紹介するなど、被災の状況や津波から尊い命を守るための教訓等をパネルや映像を用いて伝えるもの。

（映像出演者：79団体90人）

・ なお、展示の内容については、地元の皆様や関係団体などとの意見交換や、展示制作監修アドバイザーの意見を踏まえて決定しています。

① つなぐ記憶

津波の歴史や震災前後の記憶を通し、被災の大きさを伝える。



② 東日本大震災を知る

東日本大震災の概要と県内被害を伝える。



③ シアター「くり返さないために」

科学的視点とリアルな映像で津波の恐ろしさを伝える。



④ 津波から命を守る

津波の歴史や津波のメカニズムを紹介するほか、被災時の人々の証言等を紹介する。



⑤ ともにつくる復興

震災を経て生まれた、まちを元気にし、立ち上がらせる取組や施設、団体を映像で紹介する。



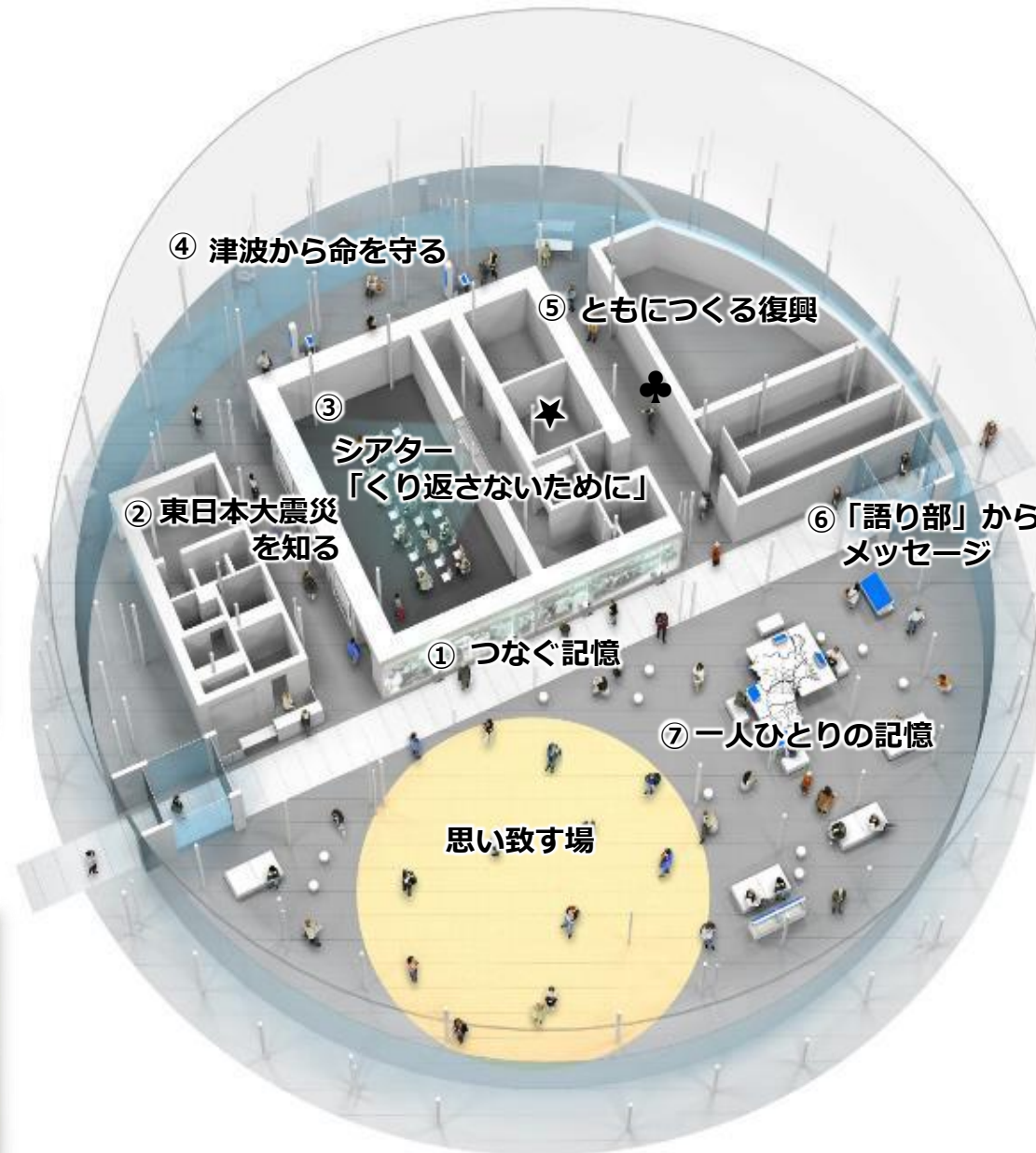
⑥ 「語り部」からのメッセージ

県内各地の語り部活動の様子を映像で紹介する。



⑦ 一人ひとりの記憶

震災当時から現在に至るまでの様々な立場・視点の証言を映像で紹介する。



★東日本大震災・緊急対応の記録 【制作：国土交通省 東北地方整備局】

発災以降の緊急対応の記録と被災物を通じて津波の脅威を伝え、頻発する自然災害への備えについて考えるきっかけを提示します。



♣ 3. 11 伝承ロード 【制作：国土交通省 東北地方整備局】

東日本大震災の実情と教訓を学ぶことができる「震災伝承施設」を紹介します。



●施設案内

来館者の見学意識を高める事を目的とした「コンセプトパネル」と、来館者への「挨拶文」、「館内案内図」を掲示しています。



コンセプトパネル

【コンセプトパネル】

東日本大震災による津波に巻き込まれながらも一命を取り留めた、当時石巻市南浜地区にて被災した方が、当時身につけていた衣類及び当時撮影した写真をパネル化し、展示しています。



挨拶文 及び 館内案内図

※掲出パネルはすべてQRコードにより、多言語対応しています。
【対応言語：英語・中国語（繁体・簡体）・韓国語】

展示物名称

① つなぐ記憶

展示物構成

在りし日の情景を映像で映し出し、記憶を誘うシアターです。
失われた街を偲び、被災の大きさを心に刻みます。

- 本編「つなぐ記憶」（約7分）、待機映像「記憶のまち」（約5分）

展示物概要

- かつての県内の風景を辿りながら、繰り返し襲来した津波の歴史を伝えます。
- 津波によって日常生活が一瞬にして失われた衝撃と、その大きさを映像で表現します。

映像の特徴

- 1 震災前、震災後の変化を様々な映像で表現し、東日本大震災がもたらした被災の大きさを伝えます。
- 2 最新映像を駆使した印象的な映像表現により、過去の写真や絵図で情景を演出します。
- 3 津波のシーンでは直接的な視覚表現は避け、朗読と文字表現で臨場感を演出します。

参考情報

<本編ナレーター>

阿部 未来（あべ みく） フリーアナウンサー

石巻市出身、仙台市在住

県内を中心にラジオパーソナリティー、TVリポーター、ナレーター、MC等、幅広く活動中。

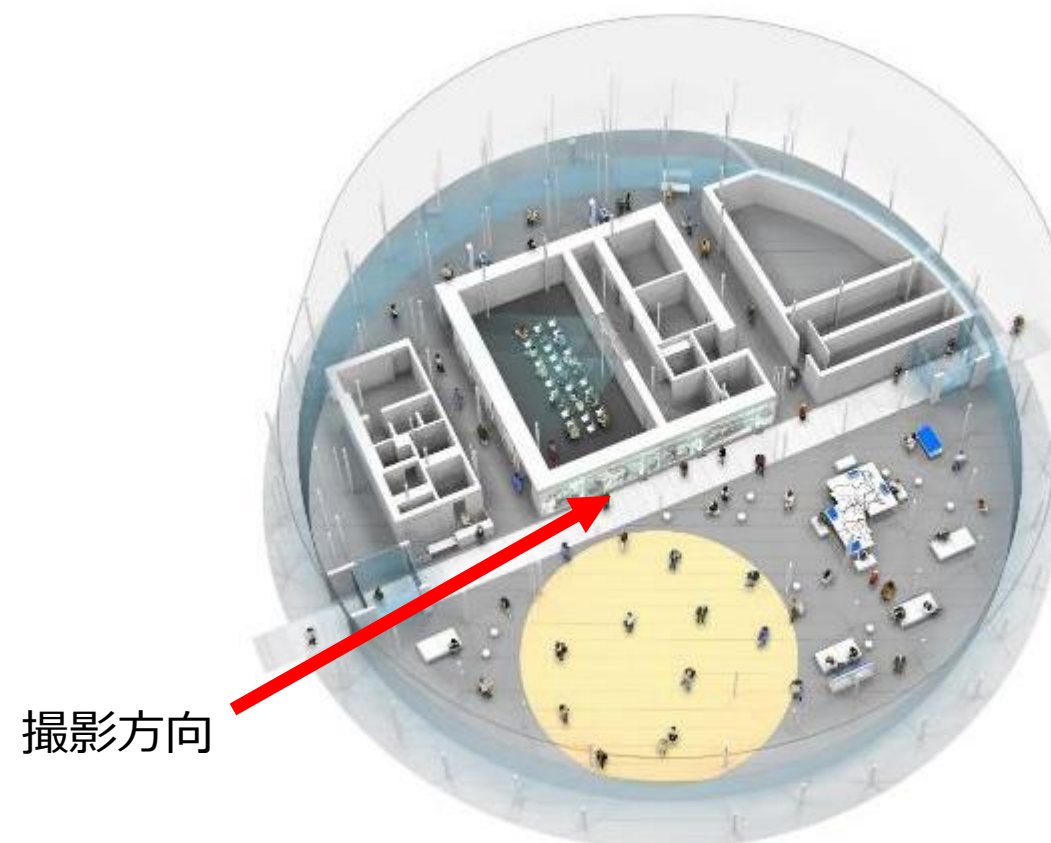
<本編映像 画像提供元>

仙台市・石巻市・塩竈市・名取市・岩沼市・東松島市・亘理町・山元町・女川町・南三陸町・
仙台市歴史民俗博物館・石巻圏ふるさと映像館・
名取市図書館・リアス・アーク美術館・南三陸町観光協会・毎日新聞社・
東日本大震災アーカイブ宮城・東日本大震災文庫（宮城県）

<待機映像 画像提供元>

石巻市・塩竈市・気仙沼市・名取市・山元町・女川町・南三陸町・
石巻圏ふるさと映像館・毎日新聞社

●空間イメージ 1 開かれた壁面に映像投影を行います。



展示物名称

② 東日本大震災を知る

展示物構成

観測史上最大級の地震・津波による甚大な被害とその全体像を伝えます。

- 「被害」、「津波」、「地震」の3つのパネルで構成

地図ベースによる全体解説とグラフィックによる宮城県の被害概要解説を行います。

- 空間イメージ

展示物概要

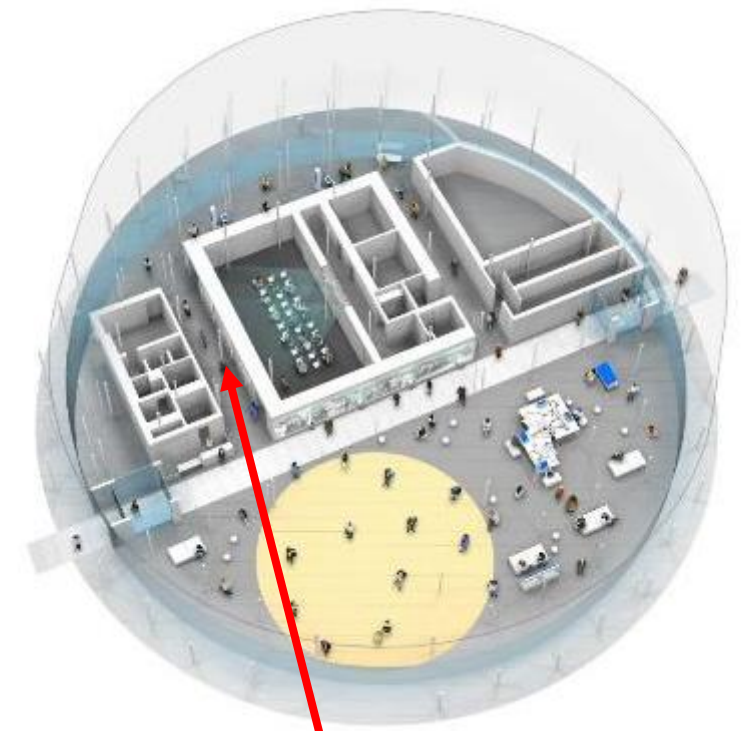
- 東日本大震災の全体像、および全国最大を記録した宮城県の被害の全体像を概観できるものとし、各特徴と基礎的情報を分かりやすく伝えます。

大震災の概要（地震）

大震災の概要（津波）



大震災の概要（被害）



撮影方向

展示物名称

③ シアター「くり返さないために」

展示物構成

リアルな映像と科学的視点で津波の恐ろしさを実感します。
ドキュメンタリータッチの演出により、津波から命を守るには“逃げる”
しかないことを徹底して訴えます。

展示物概要

東日本大震災の事実を基に、科学的視点から津波の恐ろしさを伝えます。命を守ることを最重要事項と捉え、津波から“逃げる”ことの重要性を徹底して訴えます。

- 本編「くり返さないために」（約11分）、待機映像なし。
- 収容可能人数：約40人（1クラス分）

映像の特徴

- 1 「津波襲来時の波高を示したCG」と「実際の現場画像」を対比させ、“同時性”にこだわったストーリーを展開します。
- 2 残された映像や人々の証言など、東日本大震災の事実を最大限取り入れ、リアリティを追求します。
- 3 データやメカニズムなど、科学的視点で“逃げる”意識・行動の定着へと結びつけます。

参考情報

<本編ナレーター>

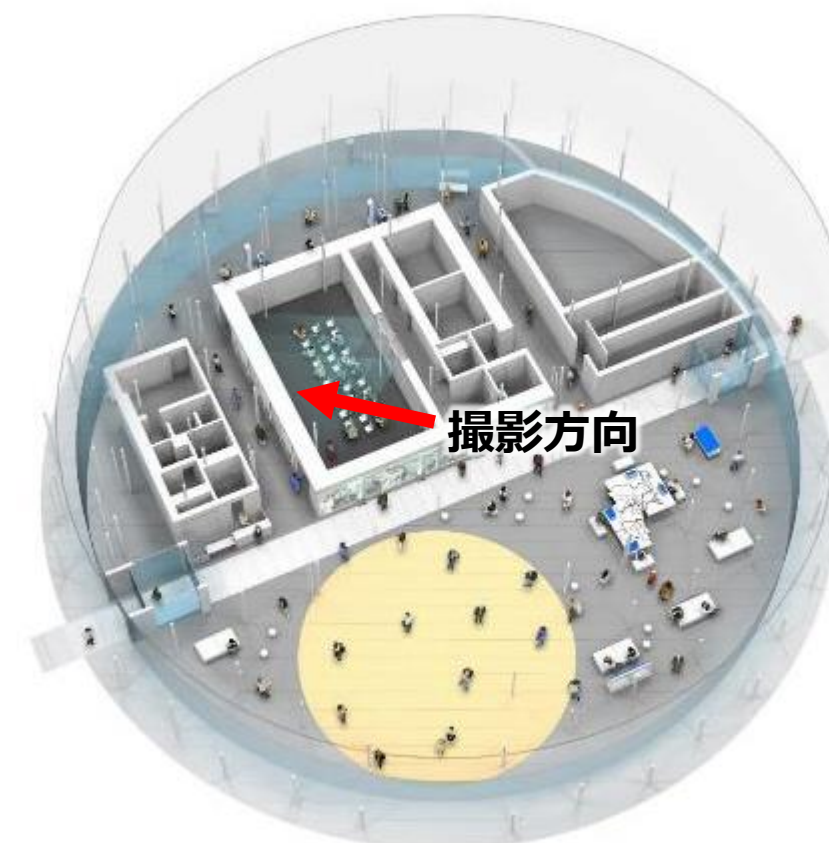
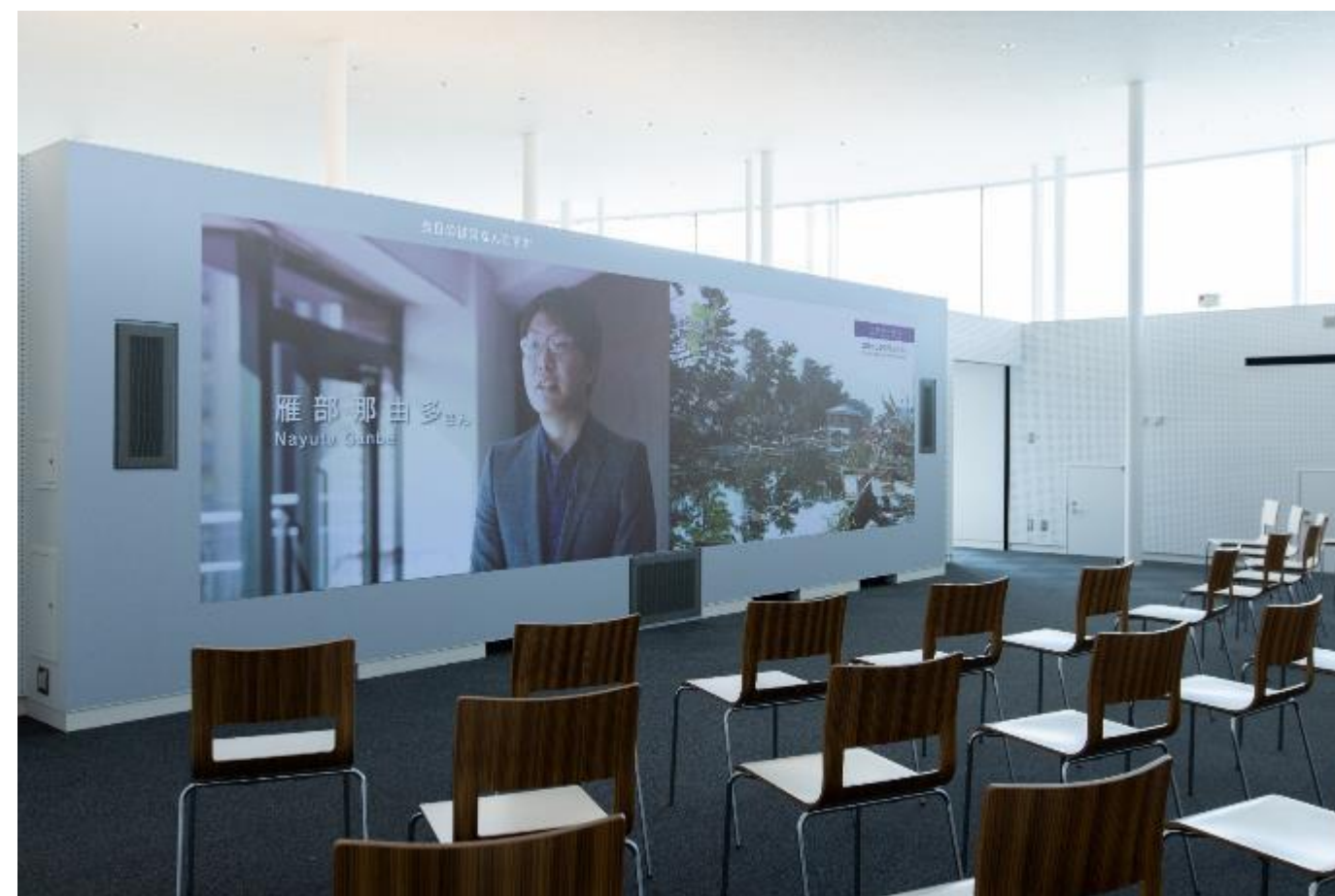
茅根 利安（ちのね としやす） 俳優・演出家・舞台プロデューサー・ナレーター

仙台市出身

俳優・演出家として精力的に活動するほか、ナレーターとしても35年のキャリアを持ち、CMや企業VP、テレビ番組など数多くのナレーションを担当。

●空間イメージ

同時性表現する大型画面のマルチスクリーン演出を行います。



展示物名称

④ 津波から命を守る

展示物構成

“津波から命を守る”ための意識を植え付け、将来の危機に備える行動を強く促すために、日和山を望む空間にじっくりと向き合い学べる場を設けます。

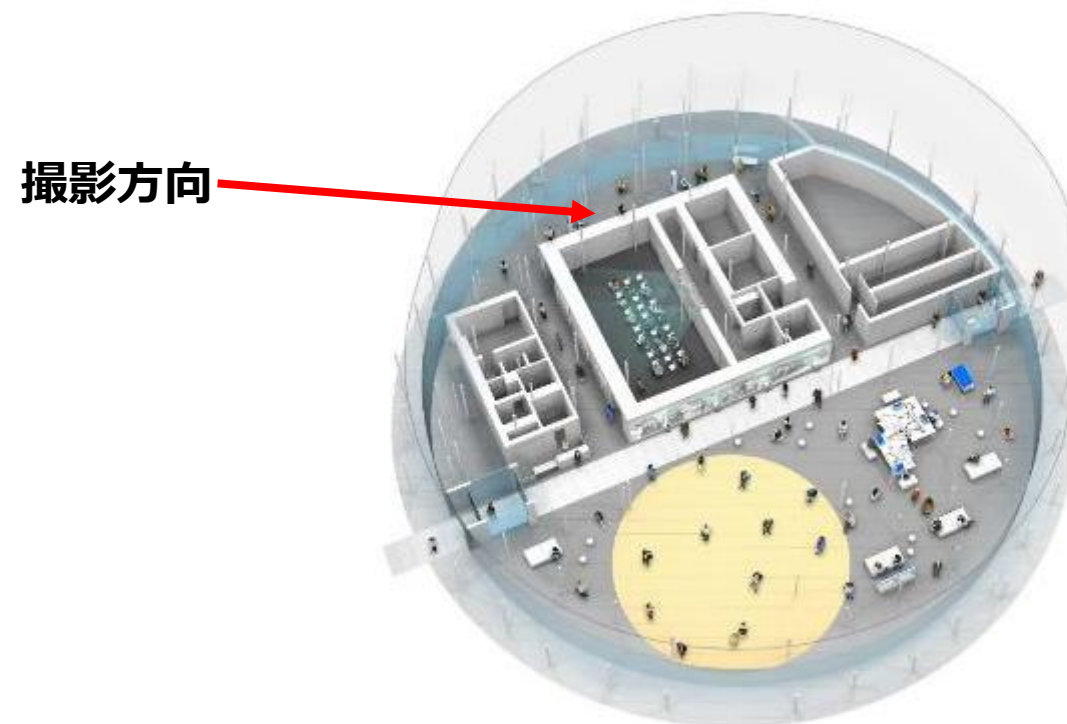
展示物概要

- “津波から命を守る”ことに焦点を絞った展示です。
一つひとつの事例や証言にじっくり向き合い、より深く学ぶ場として設定します。
- 被災した方々の実体験に基づき、空間全体で“津波から命を守る”ための意識と行動のあり方をしっかりと植え付け、一人ひとりの行動を誘発します。

展示項目

- 壁面パネル (①)
「津波はまた必ず襲ってくる」(A)
「津波を知る」(B)
「すぐに、より高い所へ逃げる！」(C)
被災時の人々の証言から、命を守るためには逃げるしかないことを学ぶ展示です。東北地方を繰り返し襲った津波の歴史や津波のメカニズムを紹介します。
- 窓側パネル (②)
「石巻市南浜地区と日和山」
日和山や震災遺構・旧門脇小学校を窓の外に眺めながら、南浜地区のこと、震災当時ここで実際に起きた出来事をご紹介します。
- 証言モニター (タッチパネル・縦型モニター 各2台ずつ) (③)
縦型モニターは被災時の人々の証言(30名)からキーワードとなるセンテンスを抽出し、モニター内で流すことでタッチモニター検索への誘導を諮ります。
タッチパネルによる検索装置により、津波から命を守るために被災時の人々の証言を読むことができ、命を守るには逃げるしかないことを学べます。
また、同じ端末で、県内自治体で発行した震災記録誌等の書籍情報へアクセスすることが出来ます。

●空間イメージ 壁面パネル①



展示物名称

⑤ ともにつくる復興

展示物構成

- 22の団体をマグネットパネルと55インチモニターにて紹介します。
- マグネットシートで紹介されている施設や団体のインタビューをモニターで視聴することができます。

展示物概要

県内各地の団体や企業、様々な人のまちを元気にする取り組みや場所を映像で紹介し、今の「みやぎ」を発信します。

- 県内各地の復興を実感できる場所や出来事、地域の産品を取り上げ、来館者に宮城県に訪れてもらうきっかけを提示します。
- 現地からの声を幅広く集め、映像を通して紹介することで、宮城県以外の地域には伝わりにくい、今の「みやぎ」の姿を発信します。
- 現地からの声を通して発信することで、国内外の多くの人々が宮城県に関心を持ち続け、来県へのモチベーションを高める事につなげます。

● 展示イメージ

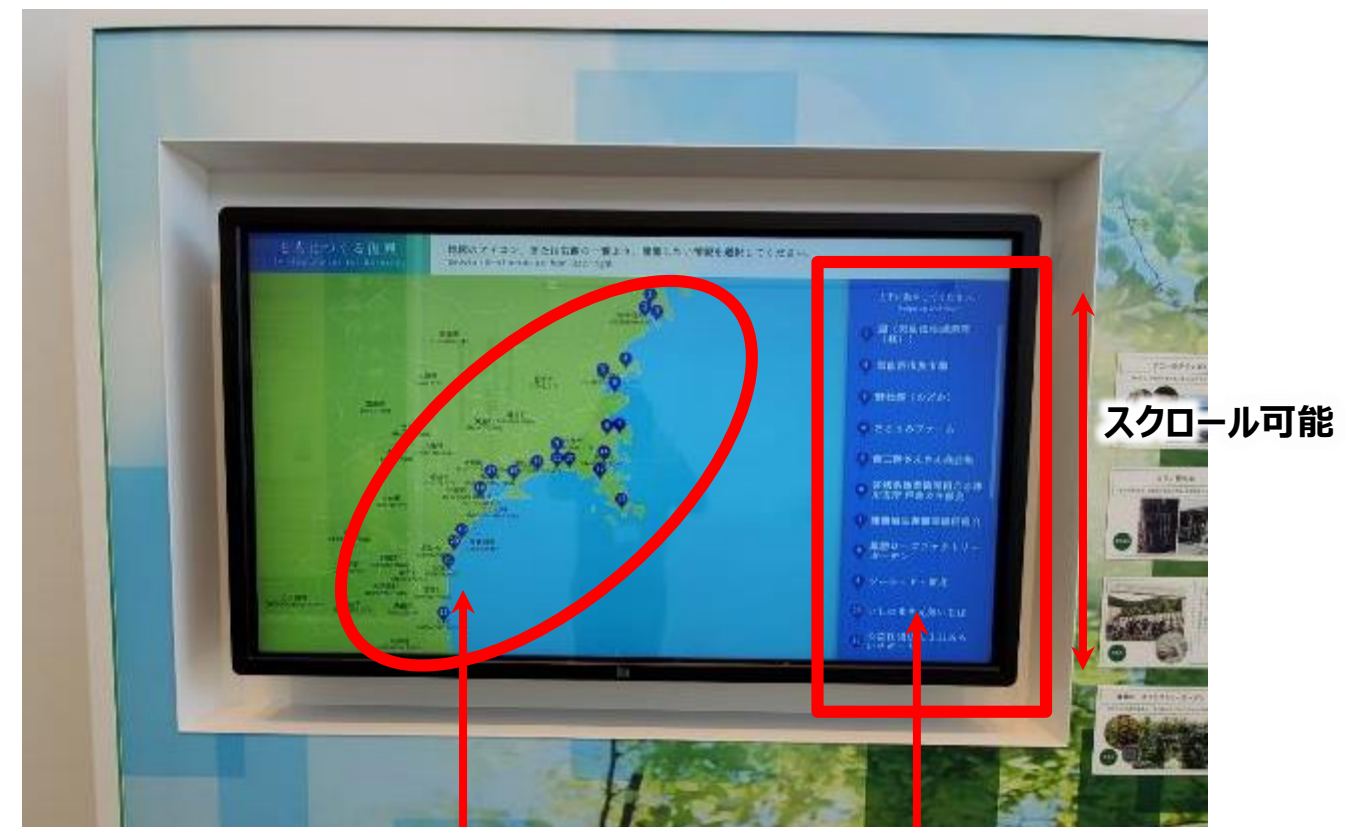


大型モニターにより、各地でインタビューした映像を紹介 (更新可能)

● モニタートップ画面



● モニター施設選択画面



地図による選択が可能
(地図は拡大・縮小が可能) 施設名称からも選択可能

⑤ ともにつくる復興

映像出演箇所及び出演者

No.	自治体名	掲載施設・行事等	所属先	氏名	映像タイトル
1	気仙沼市	ないわん（気仙沼地域開発㈱）	気仙沼商工会議所	会頭 菅原 昭彦（すがわら あきひこ）さん	機能の異なる4施設が連なる、気仙沼内湾エリアの新しい“顔”
2	気仙沼市	気仙沼市魚市場	気仙沼漁業（協組）	代表理事組合長 齋藤 徹夫（さいとう てつお）さん	壊滅的被害から取り戻した活気。海と生きる気仙沼の代名詞的存在
3	気仙沼市	野杜海（のどか）	（同）野杜海 代表 青と緑の茶や HARU	店主 小山 春幸（おやま はるゆき）さん	“地産地消”が全店のコンセプト。気仙沼大島の賑わい拠点
4	南三陸町	さとうみファーム	一般社団法人さとうみファーム	金藤 克也（かねとう かつや）さん	南三陸の自然を楽しむ、遊ぶ、食べる。地域の元気を育む牧場
5	南三陸町	南三陸さんさん商店街	㈱南三陸まちづくり未来	代表取締役 三浦 洋昭（みうら ひろあき）さん	本設の場所は、かつてのまちの中心部。南三陸が誇る大型観光施設
6	南三陸町	かき	宮城県漁業協同組合志津川支所 戸倉カキ部会	部会長 後藤 清広（ごとう きよひろ）さん	甚大な被害も、蘇った海でブランド化に成功した南三陸の牡蠣養殖
7	石巻市	雄勝硯伝統産業会館	雄勝硯生産販売協同組合	事務局長 千葉 隆志（ちば たかし）さん	硯の里、石巻市雄勝で再建。日本でも珍しい硯の展示施設
8	石巻市	雄勝ローズファクトリーガーデン	雄勝花物語	代表 徳水 利枝（とくみず りえ）さん	色を失った石巻市雄勝に、“花と緑の力”で彩りを咲かせる庭園
9	石巻市	ツール・ド・東北	①河北新報社 ②ヤフー	①事業局次長兼スポーツ事業部兼文化事業部部長 ツール・ド・東北 事務局長 山田 淳（やまだあつし）さん ②SR推進統括本部 スポーツ事業推進室室長 ツール・ド・東北 事務局長 足達 伊智郎（あだち いちろう）さん	全国のライダーと被災地域の“いま”を結ぶ大型自転車イベント
10	石巻市	いしのまき元氣いちば	㈱元氣いしのまき	代表取締役副社長 松本 俊彦（まつもと としひこ）さん	地元産を中心とした旬の味がずらり。川港石巻の食の発信地
11	石巻市	公益財団法人3.11みらいサポート		大丸 英則（だいまる ひでのり）さん	石巻で被災地の課題と向き合い、震災伝承を未来につなぐ架け橋
12	石巻市	リボーンアートフェスティバル	（一社）Reborn-Art Festival	代表理事/実行委員会事務局長 松村 豪太（まつむら ごうた）さん	舞台は石巻。地元の人々とつくる、アートと音楽と食の総合祭
13	石巻市	ホエールタウンおしか	（一社）鮎川まちづくり協会	代表理事 齋藤 富嗣（さいとう とみじ）さん	鯨のまち、石巻市牡鹿半島に再び人を呼び込むメインスポット
14	女川町	シーパルピア女川・地元市場ハマテラス	女川みらい創造㈱	代表取締役社長 阿部 喜英（あべ よしひで）さん	復興のトップランナー女川を象徴するローカルショッピングモール
15	東松島市	のり	のり工房矢本	津田 大（つだ ひろし）さん	被災を乗り越え、東松島の漁師が再起。皇室御献上の海苔の生産地
16	東松島市	KIBOTCHA	貴凜庁㈱	代表取締役 三井 紀代子（みい きよこ）さん	東松島の旧小学校を改修。遊んで身につける防災体験型宿泊施設
17	松島町	松島パークフェスティバル		実行委員長 新田 一修（にった ひろのぶ）さん 副実行委員長 佐藤 達哉（さとう たつや）さん	合言葉は“松島を音楽で元気に”。日本三景がステージの野外音楽祭
18	塩竈市	笹かまぼこ	㈱武田の笹かまぼこ	代表取締役社長 武田 武士（たけだ たけし）さん	一時は避難所として開放も、早期再開を果たした塩釜のかまぼこ工場
19	仙台市	海岸公園冒険広場		統括プレーリーダー 根本 暁生（ねもと あきお）さん	震災後、7年を経て本格再開。仙台沿岸で笑顔が交わる遊びの場
20	名取市	かわまちてらす関上	㈱かわまちてらす関上	代表取締役 櫻井 広行（さくらい ひろゆき）さん	かさ上げた堤防治いに誕生。名取市関上の商業再建のシンボル
21	岩沼市	東北・みやぎ復興マラソン	東北・みやぎ復興マラソン事務局	松本 章太（まつもと しょうた）さん	すべてのコースが津波浸水域。参加者1万人超のマラソンイベント
22	山元町	やまもといちご夢の郷		主任 貴志 由寛（きし よしひろ）さん	新鮮な“おいしい”がめじろ押し。地域から愛される山元の台所

展示物名称

⑥ 「語り部」からのメッセージ

展示物構成

県内各地の語り部団体の活動の様子を紹介し、震災遺構や伝承施設など、現地へ訪れてもらうきっかけを提示します。

展示物概要

テーブル型ディスプレイを使用し、県内各地で活動している語り部団体の活動の様子を紹介します。

震災遺構や伝承施設の情報もあわせて紹介します。

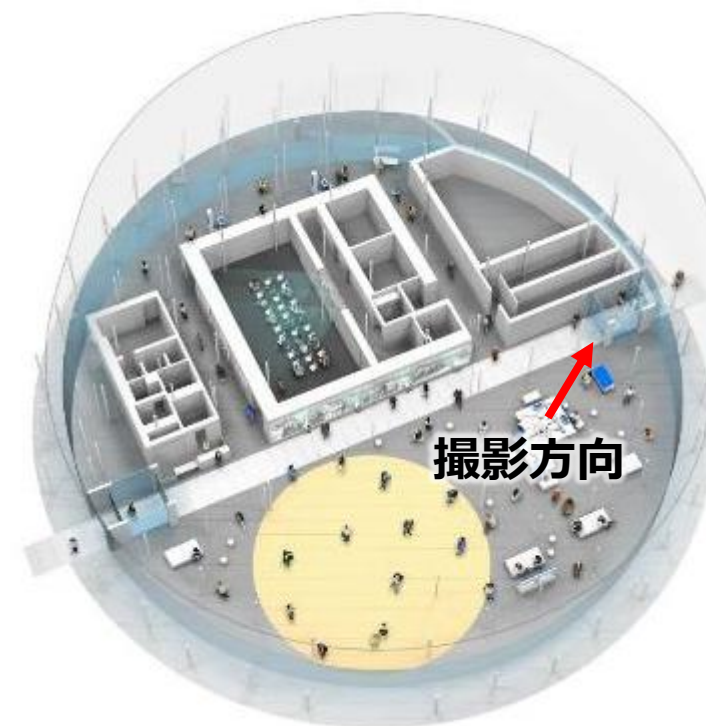
- 県内各地で語り部団体が実際に活動している様子や、活動内容をダイジェストで上映します。
- トップ画面では、「語り部団体」、「県内地図」等による検索の入り口を設け、タッチパネルによる直接的な操作を可能にします。

●空間イメージ



●展示イメージ

大型モニターによる
映像投影



⑥ 「語り部」からのメッセージ

映像出演箇所及び出演者

No	自治体名	所属名	氏名	主な活動場所	映像タイトル
1	気仙沼市	気仙沼観光コンベンション協会	尾形 幹男（おがた みきお）さん	気仙沼市内	語り継ぐことが、生き残った者の使命
2	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	近藤 公人（こんどう きみと）さん	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	命を守る術を、普段の生活から意識して
3	南三陸町	南三陸ホテル観洋 語り部バス	伊藤 文夫（いとう ふみお）さん	南三陸ホテル観洋	災害はまた来る。絶対に油断はしないこと
4	南三陸町	南三陸町観光協会 まちあるき語り部	芳賀 タエ子（はが たえこ）さん	南三陸町内、南三陸町震災復興祈念公園	自分の経験を、これから生きる命のために
5	石巻市	日和幼稚園遺族有志の会	佐藤 美香（さとう みか）さん	日和幼稚園遺族有志の会 東日本大震災慰霊碑	最愛の娘の命を生かし続けてあげたくて
6	石巻市	石巻観光ボランティア協会	会長 齋藤 敏子（さいとう としこ）さん 高城 禎彦（たかぎ さだひこ）さん 齋藤 孝志（さいとう たかし）さん	石巻市内 門脇小学校周辺での語り部ガイドも実施	失われた命が最も多い石巻から、備える大切さを
7	石巻市	雄勝花物語	徳水 博志（とくみず ひろし）さん	講演による解説及び 旧雄勝小学校周辺	失敗から得た教訓を、防災教育で次の世代へ
8	石巻市	大川伝承の会	鈴木 典行（すずき のりゆき）さん	石巻市震災遺構大川小学校	伝えたい、あの日の大川の事実と命の尊さ
9	女川町	健太いのちの教室	田村 孝行（たむら たかゆき）さん 田村 弘美（たむら ひろみ）さん	女川町 七十七銀行女川支店行員慰霊碑	息子の生きた証を、命を守る企業防災のために
10	女川町	女川1000年後のいのちを守る会	伊藤 唯（いとう ゆい）さん 鈴木 智博（すずき ともひろ）さん	女川町女川交番や 女川いのちの石碑設置場所	遠い未来の命のために、今できることがある
11	東松島市		雁部 那由多（がんべ なゆた）さん	講演による解説	自分にとって震災後は、今日も続いている
12	七ヶ浜町	きずなFプロジェクト	紀野國 七海（きのくに ななみ）さん 阿部 遥斗（あべ はると）さん	七ヶ浜町内	私たち若い語り部が、震災を風化させない
13	仙台市	震災遺構仙台市立荒浜小学校	震災遺構 仙台市立荒浜小学校 職員・HOPE FOR project 代表 高山 智行（たかやま ともゆき）さん	震災遺構仙台市立荒浜小学校	震災時だけじゃない荒浜を感じてほしい
14	名取市	関上の記憶	関上の記憶 語り部/関上中学校遺族会 代表 丹野 祐子（たんの ゆうこ）さん	名取市関上 関上の記憶	あの日の記憶を守り、刻み、語る場がある
15	名取市	関上震災を伝える会	格井 直光（かくい なおみつ）さん	名取市関上 日和山神社 名取市震災メモリアル公園	関上について考えるきっかけを子どもたちへ
16	岩沼市	いわぬま防災震災語り部・ガイド	渡邊 良子（わたなべ りょうこさん）	岩沼市千年希望の丘交流センター（相野釜丘）	その時、命が助かる正しい逃げ方を伝えたい
17	巨理町	町民ボランティア 震災語り部の会 ワツタリ	会長 菊池 敏夫（きくち としお）さん 岡崎 由紀子（おかざき ゆきこ）さん	巨理町荒浜公民館、鳥の海公園鎮魂の碑	失われる命を、限りなくゼロにしなければいけない
18	山元町	やまもと語りべの会	井上 剛（いのうえ たけし）さん	山元町震災遺構中浜小学校	現地でしか感じられないことが、必ずある

●空間イメージ



展示物名称

⑦ 一人ひとりの記憶

展示物構成

宮城県の形をした地図テーブルと4台の27インチモニターで構成されています。地図テーブル上にはインタビューの内容に合ったアイコンが置かれています。

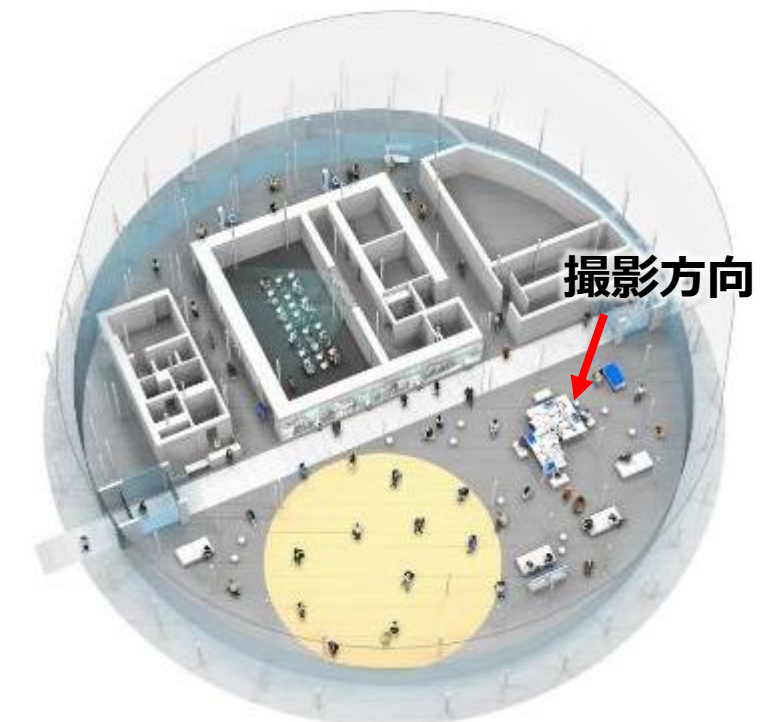
展示物概要

被災された方の震災当時から現在に至るまでの証言映像を通じ、様々な角度から震災を考えるきっかけを提示します。

- 東日本大震災で被災された方を対象に、震災当時のこと、その後の活動や取組について、さらに、震災から年数が経って、現在感じられることを伝えます。
- 自ら被災した当時の経験、救援・救護の現場や復旧・復興へ向かう中で取り組まれたことなど、様々な立場・視点の証言をインタビュー映像で紹介します。

●展示イメージ

アイコンによる証言者の紹介



⑦ 一人ひとりの記憶

映像出演者（協力者・団体）

生業【出演者一覧】

No	自治体名	所属名	氏名	映像タイトル
1	気仙沼市	(株)オノデラコーポレーション (アンカーコーヒー)	小野寺 忠夫（おのでら ただお）さん 小野寺 靖忠（おのでら やすただ）さん	コーヒーショップはまちの居場所。どんな時も感謝を忘れず、海とともに生きる
2	気仙沼市	(株)八葉水産	清水 敏也（しみず としや）さん	水産で賑わってきた街の賑わいは水産で取り戻す。従業員の暮らしを守り、いつでも前へ
3	南三陸町	丸平木材(株)	小野寺 邦夫（おのでら くにお）さん	震災後、自然と人の関係を見直し、循環を生かした地元木材のブランディングに取り組む
4	石巻市	マルキ遠藤(株)	遠藤 仁志（えんどう ひとし）さん	一度はあきらめかけた水産養殖加工業を再建。視野を広げ、足を使い、道を開く
5	女川町	ホテル・エルファロ	佐々木 里子（ささき さとこ）さん	旅館を営んでいた両親の思いを継ぎ、女川に訪れる人の「帰る場所」であり続ける
6	女川町	女川みらい創造(株)	阿部 喜英（あべ よしひで）さん	本来の家業に加えて多数の肩書きを持ち、民間主導のまちづくりを支えるキーパーソン
7	東松島市	(有)アグリードなるせ	安部 俊郎（あべ としろう）さん	地域のつながりを大切に、6次産業化や子どもの農業体験にも取り組む農業生産法人
8	塩竈市	(株)シーフーズあかま	赤間 俊介（あかま しゅんすけ）さん	海藻の加工業を営む若き経営者。震災を機に他地域の生産者とつながり新たな道が開けた
9	仙台市	農事組合法人井土生産組合	大友 一雄（おおとも かずお）さん	藩政時代から続く農業地帯が被災。農地集約と法人化で新たなブランドを創り出す
10	名取市	(株)ささ圭	佐々木 圭亮（ささき けいすけ）さん	全ての工場を流され、原点の「手づくりの味」を復活させた老舗のかまぼこ製造会
11	山元町	山元いちご農園(株)	岩佐 隆（いわさ たかし）さん	町のいちご農家の9割以上が被災しても「やっぱりいちごで復興」と立ち上がった
12	山元町	東日本復興芝生生産事業 (株)	大坪 征一（おおつぼ せいいち）さん	自らの事業を生かして故郷に新たな仕事を作り、雇用を生み出す

共助【出演者一覧】

No	自治体名	所属名	氏名	映像タイトル
1	南三陸町	南三陸ホテル観洋	阿部 憲子（あべ のりこ）さん	発災当日から被災住民を受け入れ、2カ月後からは二次避難所として約600人を支えた
2	石巻市	鰻・割烹 八幡家	阿部 紀代子（あべ きよこ）さん	被災した横丁の再生にいち早く着手。複数の店舗が入る「COMICHI石巻」を共同再建
3	東松島市	私設避難所『おさとうやま』	佐藤 善文（さとう よしふみ）さん	「津波は来ない」と言われた地域で私設避難所を整備し、70人以上の命を救った
4	東松島市	小野駅前 空の駅プロジェクト	武田 文子（たけだ ふみこ）さん	仮設住宅で女性たちが生み出したキャラクターが、ボランティアに愛され全国に広まった
5	七ヶ浜町	七ヶ浜国際村	鈴木 裕治（すずき ゆうじ）さん	指定避難所となった文化施設で人びとの心に寄り添うことを考えた
6	仙台市	なかの伝承の丘保存会	大和田 哲男（おおわだ てつお）さん	被災後、廃校した小学校跡地に作られた慰霊碑を、もと住民が守り続ける
7	名取市	防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」	佐竹 悦子（さたけ えつこ）さん	準備があれば助かる命を助けたい。実践的な防災知識を家庭に届ける市民団体
8	大崎市	鳴子まちづくり協議会元会長	高橋 鉄夫（たかはし てつや）さん	温泉旅館などを利用し、沿岸部からの二次避難者を地域一丸となって受け入れた
9	登米市	とめタウンネット	足立 千佳子（あだち ちかこ）さん	三陸の海の豊かな恵みを表現する手仕事で、女性たちの誇りを守る

⑦ 一人ひとりの記憶

映像出演者（協力者・団体）

日常【出演者一覧】

No	自治体名	所属名	氏名	映像タイトル
1	東松島市	野蒜まちづくり協議会	菅原 節郎（すがわら せつろう）さん	住み慣れた土地と家族を失い、高台へ。住民の安心と安全を思い、話し合いを重ねた
2	東松島市	あおい地区会	小野 竹一（おの たけいち）さん	仮設住宅で自治会長を務め、イベントや、集団移転に向けた話し合いを丁寧に行った
3	東松島市	青い鯉のぼりプロジェクト	伊藤 健人（いとう けんと）さん	天国の弟へ。亡くなった子どもたちへ。全国の人の思いを100年先まで届ける
4	松島町	松島流灯会『海の盆』実行委員会	後藤 伸介（ごとう しんすけ）さん	震災をきっかけに地域のお祭りを再構築。鎮魂の祈りをこめながら、皆が楽しめるものに
5	多賀城市	-	宮城 武雄（みやぎ たけお）さん	津波を詳細に記した記録集、被災者1000人に取材した証言集を自費出版
6	仙台市	中野ふるさとYAMA学校	佐藤 政信（さとう まさのぶ）さん	津波に耐えて残った思い出の場所を、これからも人が集まる場所に
7	岩沼市	玉浦西まちづくり住民協議会	森 博（もりひろし）さん 齋 健二（さいけんじ）さん 中川 勝義（なかがわかつよし）さん 小林 喜美雄（こばやし きみお）さん	沿岸部の暮らしで築いたつながりを生かして集団移転。子どもたちに残せるまちづくりを
8	亶理町	REAL SURF	残間 祥夫（ざんま あきお）さん	震災前も震災後も、変わらず海を愛するサーフショップオーナー
9	亶理町	(株)エフエムわたり	苫地 圭（とまべち けい）さん	身近な情報を届けようと友人と臨時災害FMを始める。その後コミュニティ放送局を起業
10	栗原市	傾聴移動喫茶カフェ・デ・モンク	金田 諦應（かねだ たいおう）さん	「お坊さん(モンク)もあなたの文句を聴きながら悶苦します」と繰り返す被災地を訪ねる

救助【出演者一覧】

No	自治体名	所属名	氏名	映像タイトル
1	気仙沼市	(当時)第二管区海上保安本部 宮城海上保安部 気仙沼海上保安署 次長	小野寺 宏明（おのでら ひろあき）さん	市の災害対策本部で、消防や自衛隊など他機関との連携により救助活動を展開
2	気仙沼市	気仙沼市消防団 第13分団	三浦 弘一（みづら こういち）さん	日頃の訓練を生かして救助活動に従事。地域密着であるがゆえの苦悩と誇りを感じた
3	石巻市	(当時)陸上自衛隊 第4 4 普通科連隊 第4中隊 中隊長	山内 和義（やまうち かずよし）さん	中隊長として自分を鼓舞。隊員を引っ張り困難な任務を完遂
4	石巻市	(当時)第四管区海上保安本部 鳥羽海上保安部 巡視艇いすず通信長	谷 清仁（たに きよひと）さん	三重県から応援に駆けつけ、孤立していた幼稚園児を救出
5	塩竈市	(当時)第二管区海上保安本部 宮城海上保安部 巡視船くりこま主任機関士	藤田 伸樹（ふじた のぶき）さん	行方不明者捜索のため、約2年間毎日、三陸の海に潜り続けた潜水士
6	塩竈市	塩竈市浦戸消防団	遠藤 勝（えんどう まさる）さん	100人ほどが暮らす離島の消防団。住民のつながりと先人の知恵により命を守った
7	仙台市	仙台市消防局 (当時)若林消防署警防第一係 特別消防隊 主任	林 昌一（はやし しょういち）さん	前例の無い救助活動は難しい判断の連続。後悔しないために自分の「幹」を育てる
8	岩沼市	岩沼市消防団	大村 昇（おおむら のぼる）さん	自らも被災しながらの消防団活動。生活再建を経て新しい時代の消防団活動へ